



# 高松市長に聞く

## profile

高松義行

昭和29年12月2日生まれ 60歳

旧本宮町議会議員、本宮市議会議員を歴任。平成23年2月より現職。2期目を迎えた

## Interview

市長へインタビュー

2月4日から2期目がスタートした高松市長に市政執行にあたっての抱負や課題にどのように取り組まれるか、市民の皆様へのメッセージについてインタビューにお答えいただきました。

(インタビュー：秘書広報課長)

### ■1期目の4年間を振り返り

感じたことをお聞かせください

大変厳しい4年間でありました。

東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故への対応を余儀なくされ、市民の皆様方も大変不安な状況にあったかと思えます。

一つ一つハードルを越えながら復興に向けて進んできました。併せて、この大きな災害と原発事故を乗り越え、今後の本宮市を創っていくために、将来の本宮市像をどう描くかの大きな足掛かりとして、その一步を踏み出す4年間ではなかったかと思えます。

### ■2期目の抱負をお聞かせください

震災からの復旧はほぼ終了しました。しかし、原発事故に関しての対策はまだ残っています。

除染や風評被害対策、健康管理は重点目標としてしっかりと進めていかなければなりません。

また、本来、本宮が進むべき方向として、立地条件の良さである「福島のへそのまち もとみや」という、潜在的に持ち合わせている優位性を利用し、震災前にも増して元気のある「もとみや」を取り戻すため、種々の施策を織り交ぜながら、定住促進の施策を進め、本宮市に住んでいただく方々を増やしていくことにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

### ■復興への取り組みについてのお考えは

原発事故からの復興については、住宅除染や仮置き場の整備など、着実に進んでいます。また、風評被害対策については農産物のモニタリング検査、健康管理についてはホールボディカウンターによる内部被ばく検査やガラスバッジによる外部被ばく検査などを継続し、しっかりと進めていくことが大事です。現状を把握したうえで、次のステップに進むべきであると思えます。

### ■定住促進についてのお考えは

一つの政策だけではかなわないと思っています。いくつかの政策を柱として進めていかなければなりません。雇用の確保については、地場企業の振興と進出企業を含めた企業の立

地が重要です。なお、工業団地への進出企業は、多種多様な企業の立地を行い、多くの方々がそれぞれの能力を生かせるような職場をどう誘致していくか、どう育てていくかを大きな一つの施策として進めていかなければなりません。

また、工業団地はオーダーメイド方式で大きな開発は行わず、小さな面積を効率よく活用し、企業誘致に努めていきます。

子育て支援については、すでに始めている幼稚園・保育所の保育料の一部減免、子育て環境の整備、教育環境の整備、特色ある教育内容の充実、これらをしつかりと行っていくことが必要です。

宅地については、今、市が独自で大きな開発はすべきではないと考えています。民間の力をお借りして、民間と行政が一体となり本宮市に住みたい方々への宅地の提供を進めていきます。民間企業の方には市から助成を行い、市の規格に合った宅地を造成していただき、本宮の優良宅地として発信していきたいと思えます。

福祉の充実については、まずはここ本宮の地で子どもを産み育てる環境として、今年度の一つの施策である不妊治療への助成を行います。また、妊産婦の方には第1回目の産後検診



の補助などを充実させてまいります。

また、お年寄りの方々には、元気で長生きをしていただくことが一番の目標です。ぜひ、ふれあいプラザを利用していただき、多くの方々との触れ合いの中で仲間づくりをしていただきたいと思えます。健康体操の実施、以前から行っています肺炎球菌ワクチンの接種や健康診断を受けていただくための普及活動なども積極的に進めてまいります。市には元気なお年寄りがたくさんおられます。その方々がお子さんたちと一緒に笑顔を発信していけるような施策を進めていかなければならないと思っております。

教育環境の充実については、小中学校の耐震化やエアコン設置などを進めてきました。また、本宮まゆみ小学校にプールを設置するなどハード面はある程度整ってきました。これからは、このハード面にどのように魂を入れ行くかが大切です。教育委員会とも密に協議をしながら内容の充実を図り、学力・体力を高めるとともに心を育てる情操教育を進めていきます。

産業の振興については、現在、農業、商業、工業ともに、厳しい状況が続いています。農商工がバランス良く伸びていくことが市全体の活性化につな

がるものと思えます。

#### ■市長の描く本宮市像を

お聞かせください

自治体は日々動いており、これが良いという到達点はありません。

震災や原発事故もあり、お子様からお年寄りまで誰もが笑顔で安心して暮らせる本宮の元気を全国に発信できること。そして「住んで良かったと思える本宮」であることが今後5年から10年の間に描く本宮市像であると思えます。

#### ■市民の皆さんへ

メッセージをお願いします

一期4年間、大変お世話になりました。これからの4年間もがんばってまいります。

まずは、市内全域の除染など、やらなければならないことにしっかりと取り組みます。

また、本宮の持つ優位性を生かし、優先順位を持って施策を進めていかなければなりません。

市民の皆さんとともに考え、一緒になつてまちづくりや市の方向性を決めて行きたいと思えます。